

登別市の外来種 (ブルーリスト)



下のアドレスをクリックしてください

http://bluelist.ies.hro.or.jp/db/list_map.php?mode=city&cd=230

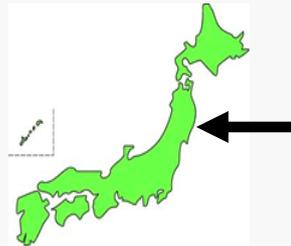
外国や国内の他の地域から、もともとその地域に生息していない生き物が、人によって運ばれ、その後逃げ出したり、捨てられたりしてその地域に住みついてしまい、その地域の生き物を滅ぼしたり、私達の生活に害を及ぼしていることが大きな問題となっています。

私たちが外来種生物と仲良く生活できるよう、問題となっていることや約束事をまとめました。

(1) 外来種とは

○ 外来種とは、たとえばアライグマのように、もともと日本にいなかったのに、人間が外国から持ち込んできた生物のことです。

本来、北アメリカにしか生息しないアライグマ



○ 日本の野外に生息する外国から入って来た生物の数は、わかっているだけでも約 2, 000 種類にもなります。

明治以降、日本と外国との間で人や物の移動が活発になり、多くの動植物がペットや展示用、食用、研究用などの目的で輸入されたり、荷物にまぎれ込んで運ばれるなど、人間の活動によって日本にやってきました。

○また、同じ日本にいる生物でも、国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合も外来種といいます。

たとえばカブトムシは、本来は本州から南の地域にしか生息していなかった生物ですが、人によって北海道に持ち込まれ野生化してしまいました。

○登別市に入ってきた外来種には、アライグマやオオハンゴンソウなどがあります。

○外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように、私たちの生活に欠かせない生物もたくさんいます。

これらの生物が、何らかの理由で自然界（野山、湖、川など）に逃げ出したり捨てられたりして野生化し、その地域に住み着いてしまう場合もあります。

※ 他の地域から移動して来る渡り鳥や海流によって移動してくる魚は外来種ではありません。

また、渡り鳥のフンに混ざって運ばれてきたり、風に乗って飛んできた植物の種類など自然の力で入ってきた生物も外来種にはなりません。

（２）外来種の影響について

外来種の影響には、生態系への影響、人の生命・身体への影響、農林水産業への影響の3つがあります。

①生態系への影響

○外来種が、もともといる動植物を捕食したり、食料を食べ尽くしてしまうことで、既存の生物が大幅に減少したり、絶滅してしまうなど、生態系が変化します。

例えば、アライグマは捕食対象が広く、北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウウオといった固有在来種の捕食が報告されています。

また、アメリカミンクは北海道の広範囲に分布し、水辺に多く定着しています。哺乳類、鳥類、甲殻類など様々な生物を捕食します。

○近縁の在来生物と交雑して雑種を作ってしまう、在来種の遺伝的な独自性がなくなってしまう。

②人の生命・身体への影響

○凶暴な外来種や毒を持つ外来種にかまれることで、けがをする恐れがあります。

③農林水産業への影響

○外来種や、外来種によって食料が無くなった生物が人間の住む所まで来て畑を荒らします。

○漁業の対象となる生物を食べるなどして、危害を加えたりするものもいます。

※もちろん、環境に順応して悪さをしないで生息する外来種もいます。

(3) 特定外来生物について

○国では、特に害のある外来種を「特定外来生物」として、法律で定めています。

研究目的など以外で飼ったり、保存したり、輸入したり、野外に捨てたり、許可のない人と売り買いすることはできません。

(4) 北海道に生息範囲をもつ特定外来生物（北海道ブルーリスト2010より）

北海道に生息する特定外来生物は、次の20種類です。

哺乳類：アライグマ、ミンク、キタリス、タイリクモモンガ、フクロギツネの一種、
ハイイロリス、ハリネズミ科（エリナケウス属）の全種

両生類：ウシガエル

爬虫類：カミツキガメ

魚類：ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、ノーザンパイク

昆虫：セイヨウオオマルハナバチ

昆虫以外の無脊椎動物：ウチダザリガニ、カワヒバリガイ

植物：オオハンゴンソウ、アレチウリ、オオフサモ、オオキンケイギク

※ ブルーリストとは：希少野生生物のリストが「レッドリスト」とされていることから、ブルー（青色）とレッド（赤色）を対照的にとらえ、外来種リストを「ブルーリスト」と命名しました。（参考資料引用：北海道）

(5) 外来種による被害の防止について

○もともと登別に住んでいる動植物を「特定外来生物」の被害から守るには、**特定外来生物を「入れない」・「捨てない」・「広げない」**ことが大切です。

この3つを、「外来生物被害予防三原則」といいます。

○特定外来生物は人が連れてきた動植物なので、外から連れてこないと増えません。

特定外来生物を連れてきてしまったら、野外に捨てないようにしましょう。

既に野外に捨てられている特定外来生物は、今いる地域から他の地域まで広げないようにしましょう。

○この外来生物被害予防三原則を守ることで、もともと住んでいる動植物に悪影響を与えないようにできます。

（「特定外来生物」は、捕まえたり取り除く場合もありますが、国の許可をもらうことが必要です。）

※ 登別市の外来種（ブルーリスト）の作成について

このホームページは、「北海道の外来種リスト ー北海道ブルーリスト 2010ー」と「環境省自然環境局 外来生物法」のホームページをもとに作成したものです。

(参考資料)

- ・ 北海道ブルーリスト2010 : <http://blueist.ies.hro.or.jp/>
- ・ 環境省 外来生物法 : <http://www.env.go.jp/nature/intro/outline/index.html>

登別市の外来種（ブルーリスト）

登別市のブルーリストは、北海道ブルーリスト2010から、登別市に生息する生物を抽出したものです。

○ブルーリストとは

野生生物が本来の移動能力を超えて、国外又は国内の他地域から人為によって意図的・非意図的に導入された外来種を取りまとめたものです。

外来種のリスト

1. 分類一覧

全種	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫	昆虫以外の無脊椎動物	植物
126 種	3 種	2 種	0	0	1 種	0	1 種	119 種

2. 生物一覧

分類群	種目 (亜種名)	原産地	カテゴリー区分	特定外来生物	要注意外来生物
哺乳類	アライグマ	北米	A1	○	
	テン	日本（本州など）、アジア	A2		
	ニホンイタチ	日本（本州など）	A2		
鳥類	キジ	アジア	A3		
	カササギ	アジア、ロシア・シベリア	B		
魚類	ニジマス	北アメリカ	A2		○
昆虫以外の無脊椎動物	チャコウラナメクジ	ヨーロッパ	A2		
植物	カラマツ	日本（本州）	B		
	ハイミチヤナギ	ユーラシア	A3		
	ヒメスイバ	アジア、ロシア・シベリア、ヨーロッパ	A3		
	ナガバギシギシ	アジア、ロシア・シベリア	A3		
	エゾノギシギシ	ヨーロッパ	A3		○
	マツヨイセンノウ	ヨーロッパ	A3		
	ムシトリナデシコ	ヨーロッパ	A3		

植物	アケボノセンノウ	ヨーロッパ	B		
	シロザ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	B		
	ハルザキヤマガラシ	ヨーロッパ	A3		○
	オニハマダイコン	北アメリカ	A3		
	エゾノミツモトソウ	ヨーロッパ	A3		
	イタチハギ	北アメリカ	A3		
	コメツブウマゴヤシ	ヨーロッパ	A3		
	ハリエンジュ	北アメリカ	A2		○
	ムラサキツメクサ	アフリカ	A2		
	シロツメクサ	アフリカ			
	メマツヨイグサ	北アメリカ			○
	イワミツバ (フイリイ ワミツバを含む)	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	A2		
	ノラニンジン	ヨーロッパ	A3		
	ヒレハリソウ	ヨーロッパ	A3		
	ビロードモウズイカ	ヨーロッパ	A3		
	ヘラオオバコ	ヨーロッパ	A2		○
	セイヨウノコギリソウ	ヨーロッパ	A3		
	ゴボウ	アジア、ヨーロッパ	A3		
	ヨモギ	日本 (本州)	A3		
	ヤブヨモギ	日本 (本州)	A3		
	ユウゼンギク	北アメリカ	A3		
	アメリカセンダングサ	北アメリカ	A3		○
	キクニガナ	ヨーロッパ	B		
	ヒメムカシヨモギ	北アメリカ	A3		
	ヒメジョオン	北アメリカ	A3		○
	ヘラバヒメジョオン	北アメリカ	B		
	ブタナ	ヨーロッパ	A2		○
	フランスギク	ヨーロッパ	A2		
	コンカギク	アジア	B		
	オオハンゴンソウ	北アメリカ	A2	○	
	オオアワダチソウ	北アメリカ	A2		○
	アカミタンポポ	ヨーロッパ	A3		○
セイヨウタンポポ	ヨーロッパ	A2		○	
キショウブ	ヨーロッパ	A2		○	
ヒメヌカボ	ヨーロッパ	B			
コヌカグサ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	A3			

植物	ハイコヌカグサ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	B		
	カモガヤ	アジア	A3		○
	シバムギ	ヨーロッパ	A3		○
	ヒロハノウシノケグサ	ヨーロッパ	A3		
	オオウシノケグサ	ヨーロッパ	B		
	クサヨシ	北半球各地	A3		
	オオアワガエリ	ヨーロッパ	A3		○
	ナガハグサ	ロシア・シベリア	A3		
	ウラジロハコヤナギ	ヨーロッパ	A3		
	セイヨウハコヤナギ	ヨーロッパ	B		
	シダレヤナギ	アジア	B		
	ウンリュウヤナギ	アジア	B		
	ソバ	アジア	B		
	ノハラナデシコ	ヨーロッパ	B		
	ヌカイトナデシコ	ヨーロッパ	B		
	ノハラツメクサ	ヨーロッパ	A3		
	ウスベニツメクサ	アジア、ヨーロッパ	B		
	カラフトホソバハコベ	ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	A3		
	コハコベ	北アメリカ、中南アメリカ、 ロシア・シベリア、ヨーロ ッパ、アフリカ、オセア ニア	A3		
	コアカザ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	B		
	ウラジロアカザ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	B		
	イヌビユ	ヨーロッパ	B		
	ドクダミ	日本（本州）	A3		
	セイヨウオトギリ	ヨーロッパ	B		
	セイヨウワサビ	ヨーロッパ	A3		
	オランダガラシ	アジア、ヨーロッパ	A2		○
	キレハイヌガラシ	ヨーロッパ	A3		
	カキネガラシ	ヨーロッパ	B		
	ツルマンネングサ	アジア	B		
	フサスグリ	ヨーロッパ	B		
オキジムシロ	ヨーロッパ	D			
エニシダ	ヨーロッパ	A3			

植物	ヒロハレンリソウ	ヨーロッパ	B		
	セイヨウミヤコグサ	アフリカ			
	ルピナス	北アメリカ			
	ムラサキウマゴヤシ	アフリカ	A3		
	シナガワハギ	アジア、ヨーロッパ	A3		
	フジ	日本（本州）	A3		
	コニシキソウ	北アメリカ	B		
	タチアオイ	アジア	B		
	コヒルガオ	アジア	B		
	ノハラムラサキ	ヨーロッパ	A3		
	ワスレナグサ	ヨーロッパ	A3		
	ヒメオドリコソウ	ヨーロッパ	A3		
	イヌヒメコヅチ	北アメリカ、中南アメリカ	D		
	イヌホオズキ	北アメリカ、ヨーロッパ	A3		
	オオイヌノフグリ	アジア	B		
	ハタザオキキョウ	ヨーロッパ	B		
	ブタクサ	北アメリカ	A2		○
	ネバリノギク	北アメリカ	A3		○
	イガヤグルマギク	ヨーロッパ	D		
	アメリカオニアザミ	ヨーロッパ	A2		○
	コスモス	中南アメリカ	B		
	ハルジオン	北アメリカ	A3		○
	ハキダメギク	中南アメリカ	B		
	ククイモ	北アメリカ	A3		○
	コウリントンポポ	ヨーロッパ	A2		
	イヌカミツレ	ヨーロッパ	A3		
	ノボロギク	ヨーロッパ	A3		
	セイタカアワダチソウ	北アメリカ	A2		○
	オニノゲシ	ヨーロッパ	B		
	ニラ	日本（本州）	B		
	オランダキジカクシ	ヨーロッパ	B		
	ヤブカンゾウ	アジア	B		
	オニユリ	アジア	B		
ナガイモ	アジア	B			
ハルガヤ	アジア、ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	A3			
シラゲガヤ	ヨーロッパ	B			
ネズミムギ	ヨーロッパ、アフリカ	A3		○	

植物	ホソムギ	アジア、アフリカ	A3		
	アズマネザサ	日本（本州など）	B		
	ヌマイチゴツナギ	ロシア・シベリア、 ヨーロッパ	B		
	オオスズメノカタビラ	ヨーロッパ、アフリカ	A3		
	コムギ	アジア	B		
	ホソミナズナ	ヨーロッパ	B		
	キヌガサギク	北アメリカ	B		

※ カテゴリー区分の説明、ここをクリックしてください（リンク先：北海道のホームページ）



<http://bluelist.ies.hro.or.jp/gaiyou/sentei2.html>

※ インターネットにて、「北海道ブルーリスト」と入力し、「北海道ブルーリスト」をクリックすると、「北海道外来種データベース」のホームページをご覧いただけます。

● 登別市の外来種の写真やイラスト、その他詳しい内容は、次のアドレス（北海道のホームページ）をご覧ください。

・リンク先アドレス

登別市のブルーリスト : http://bluelist.ies.hro.or.jp/db/list_map.php?mode=city&cd=230